

の微注ポンプやベッド柵、タオルケットおよび、ナースステーション内薬品棚と薬品保管用の冷蔵庫内から *B. cereus* が検出された。以上から、本アウトブレイク対策として環境整備の頻度を増やすこと、さらにラウンドカートを活用し、ベッドサイドでライン操作直前の手指消毒と PPE の装着をより徹底することを提案した。その結果、速やかにアウトブレイクは終息し、2013年10月以降は散発的に1例の *B. cereus* 血液培養陽性があったのみである。

リネンや血管留置カテーテルを介した *B. cereus* の院内アウトブレイク事例は多く報告されている。本事例は環境から手指を介した感染であり、ICT が現場の状況を早期に把握して適切な対応を促したこと、手指衛生と PPE 装着のタイミングを是正したことが早期の終息に寄与したと考えられた。

## P2-30.

### 成人に対する不活化ポリオワクチン追加接種の免疫原性

(大学病院：渡航者医療センター)

○福島 慎二、濱田 篤郎

【背景・目的】 日本の予防接種プログラムは、生ポリオワクチン (OPV) の2回接種する方式であり、世界的には回数が少なかった。そのため、日本人成人がポリオ常在国へ渡航する場合、ポリオワクチンを追加接種することが推奨されていた。2012年9月に不活化ポリオワクチン (IPV) が導入されたため、日本人成人に対する IPV 追加接種の効果を評価する目的で本研究を行った。

【方法】 成人を対象に、IPV を4週間間隔で2回接種した。ポリオウイルスに対する血清中和抗体価を計3回 (ワクチン接種前、1回目接種の4週間後、2回目接種の4週間後) 測定した。中和抗体価は、OPV のワクチン株 (Sabin1型、2型、3型)、野生株標準株 (Mahoney、MEF-1、Saukett)、さらにベトナムとナイジェリアで分離された2型ワクチン由来ポリオウイルス (VDPV) 4株 (SV3128、SV3130、11196、11198) について測定した。

【結果】 成人42例。性別は、男性18例、女性24例であった。年齢群は、20歳代8例、30歳代27例、40歳代4例、50歳代3例であった。OPV 接種歴は、2回接種している者が22例、1回接種している者が

2例、不明が18例であった。

IPV 接種前に中和抗体価8倍以上を保有する者は、OPV 株の Sabin1型で38名 (90.5%)、Sabin2型で40名 (95.2%)、Sabin3型で24名 (57.1%) であった。また野生株標準株の Mahoney で32名 (76.2%)、MEF-1で38名 (90.5%)、Saukett で16名 (38.1%) であった。2型VDPV株のSV3128では39名 (92.9%)、SV3130で38名 (90.5%)、11196で39名 (92.9%)、11198で38名 (90.5%) であった。

接種後の中和抗体価は、ほとんどの被験者でIPV を1回接種するだけで8倍以上に上昇した。2回接種後は、全ての株に対して、全例が中和抗体価8倍以上となった。

【結論】 IPV 追加接種後、すべてのポリオウイルス株に対する中和抗体価は顕著に上昇した。IPV 追加接種後の中和抗体価は、すべての血清型において、Sabin 株と強毒株での違いは認められなかった。2型VDPV 株に対する中和抗体価も、Sabin 2株に対する抗体価と同等であった。

【謝辞】 本研究は、平成24年度厚生労働科学研究費補助金 (新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業) 「エンテロウイルス感染症制御のための診断・予防治療に関する国際連携研究～エンテロウイルス感染症の制御に関する臨床医学的研究」の一環として実施された。

川崎医科大学小児科学中野貴司先生、国立感染症研究所ウイルス第2部清水博之先生に深謝申し上げます。

## P2-31.

### クリスタル紫の抗菌効果と臨床応用に向けた検討

(社会人大学院4年微生物学)

○叶 一乃

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部)

島村 明花

(微生物学)

松本 哲哉

【背景と目的】 クリスタル紫は検査の領域ではグラム染色に使用される試薬であるが、従来より殺菌効果を示すことが知られており、外用薬として一部で使用されている。ただし Methicillin resistant *Staphy-*